

日本 GIF オンラインセミナー
「世界のチョークポイントと新航路の評価」
実施報告書(概要版)

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 主催：公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)
- 日時：2021年7月16日(金) 14:00～15:30
- 開催形式：Zoom を利用したオンライン形式 (ウェビナー)
- 講演者：鳥海重喜 氏 (中央大学理工学部准教授)
- 司会者：坂本品子 (日本 GIF 事務局長)

プログラム内容：

- 14:00 開会挨拶 坂本品子
- 14:05 講演 鳥海 重喜氏
- 14:50 質疑応答
- 15:30 閉会 坂本品子

開催の趣旨

今年3月のスエズ運河の事故は、世界の物流に多大な影響を及ぼした。スエズ運河は世界の代表的なチョークポイントであり、物資やエネルギー資源が世界的に取引されている現代において、チョークポイントの重要性は増している。特に日本は、原油の供給を中東地域に依存しており、チョークポイントは日本のエネルギー安全保障の鍵となっている。

スエズ運河での事故を振り返り、世界のチョークポイントとその現状、日本及び世界の物流・環境等への影響について、また日本 GIF が長年研究を続けてきた「北極海航路」やタイの「クラ運河構想」等の新航路の可能性や評価の手法について検討するため、「世界のチョークポイントと新航路の評価」と題するオンラインセミナーを企画・開催した。

講演要旨

今年3月の事故でスエズ運河は6日間通行不能となり、多くの船が足止めされ、喜望峰やパナマ運河経由で迂回をした船も多かった。

世界のチョークポイントにおいては、封鎖や攻撃など輸送の不確実性がある。エネルギーを船舶での輸入に頼っている日本では、今後輸入地域を多様化することが重要である。リスク評価モデルにより、チョークポイントを通過する輸送には中型や小型のコンテナ船、ロシアなどチョークポイントリスクのない輸送には大型のコンテナ船の利用が良いことが分かった。

北極海航路は、季節限定であり、通過できる船の大きさも限られるが、積荷を北極海航路に近い発着地に集めて輸送すれば、コストメリットが出てくる。クラ運河に関しては、タイ周辺の発着に対しては効果が高いことが分かったが、日本発着にはそれほど優位性はない。今後は、輸送ルートの多様性に加えて、輸送手段の多様性が必要となる。

<質疑応答>

チョークポイントの国際的な枠組み、北極海航路とクラ運河など新航路について、リスク評価の方法、AIS データについて、質疑応答がなされた。

アンケート・感想

参加者に対し、退出時にアンケートを表示し回答を依頼した。セミナー情報の入手先、実施内容の評価、今後のセミナーへの期待等について貴重なご意見を頂戴した。

また、今後のセミナー企画の参考のため、当財団のインターンにセミナーへの参加を促し、コメントを得た。

以上